

## 第2章 総括（令和7年度の総括と令和8年度以降の取組）

「みえっこプラン」では、めざす姿である「全ての子どもが豊かに育ち、将来にわたって幸せな状態で生活することができる三重」の実現に向け、4つの総合目標と6つの基本的施策を設定しています。これらを具体的に展開するため、11の「重点的な取組」と、進行管理を行うための「重点目標」を設定しており、令和7年度はこれらに基づいて取組を進めました。

総合目標の実績をみると、「生活に満足している」と思う子どもの割合は、現状値を6.8ポイント上回り74.4%となり、また「子ども施策について自分の意見を聴かれている」と思う子どもの割合も、現状値を29.2ポイント上回り68.6%となりました。

一方で、「自分の将来について希望がある」と思う子どもの割合は、現状値を6.0ポイント下回り79.8%となり、また「自分が好きだ」と思う子どもの割合も、現状値を9.5ポイント下回り72.2%となりました。この2項目については、令和11年度の目標値との乖離も大きく、子どもたちの自己肯定感や未来への希望を育てていくよう、一層取組を進める必要があります。

11の重点的な取組については、A（順調）・B（おおむね順調）と評価した取組が8項目、C（やや遅れている）・D（遅れている）と評価した取組が3項目となりました。

順調と評価した「子どもの意見表明及び社会参画の促進」の取組については、重点目標の「県が設けた子どもの意見表明の機会の回数」（15回）及び「子どもの意見が県の施策に反映された数」（15施策）が、目標を大きく上回りました。これは、県の子ども施策について子どもが意見を届ける「みえっこ会議」の新規開催や、子どもの意見を集めるプラットフォーム「キッズ・モニター」の機能を拡充するなど、子どもの意見表明の機会の確保とその意見を尊重する姿勢を重視したことに加え、子ども自身の参画意識の高まりも要因と考えられます。引き続き、子どもが意見を表明しやすい多様な機会を創出し、その意見を施策へ反映する取組を推進します。

一方、やや遅れていると評価した「幼児教育・保育、放課後児童対策の推進」の取組については、「保育所等の待機児童数」（84人）及び「放課後児童クラブの待機児童数」（65人）が、目標未達成となりました。これは、低年齢児の保育ニーズの高止まりに対する保育士の不足や、放課後児童支援員の不足、一部地域での子育て世帯増加による定員不足が主な要因と考えられます。地域限定保育士制度の導入などによる保育士等の人材確保・処遇改善を進めるほか、「みえ子ども・子育て応援総合補助金」に新たに「仕事と子育ての両立支援」枠を設置し、保育士確保をはじめとした各市町の仕事と子育ての両立に向けた取組を後押しすることで、待機児童の解消と安心して子育てできる環境整備の取組を推進します。

令和8年度以降は、引き続き、「ありのままでみえっこプラン」に基づき、子ども・子育てに関する施策を総合的に推進し、「全ての子どもが豊かに育ち、将来にわたって幸せな状態で生活することができる三重」の実現に向けて取り組めます。

## <総合目標の令和7年度の実績について>

「みえっこプラン」のめざす姿である「全ての子どもが豊かに育ち、将来にわたって幸せな状態で生活することができる三重」について、達成度合いを測るものとして4つの「総合目標」を設定しています。

項目	項目の説明	現状値 (6年度)	実績値 (7年度)	目標値 (11年度)
「生活に満足している」と思う子どもの割合	「最近の生活満足度」を0～10点で回答してもらい、7点以上と回答した子どもの割合	67.6%	74.4%	70.0%
「自分の将来について希望がある」と思う子どもの割合	自分の将来について、「希望がある」「どちらかといえば希望がある」と回答した子どもの割合	85.8%	79.8%	90.0%
「子ども施策について自分の意見を聴かれている」と思う子どもの割合	県が行う子どものための取組について、自分の意見が聴かれていると思うかとの問いに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した子どもの割合	39.4%	68.6%	70.0%
「自分が好きだ」と思う子どもの割合	自分が好きかとの問いに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した子どもの割合	81.7%	72.2%	85.0%

※現状値は、令和6年度キッズ・モニターアンケート結果による。

※実績値は、令和7年度に三重県内の小学校5年生・中学校2年生・高校2年生を対象に実施したアンケート結果による。